

事務事業マネージメントシート

作成日 平成29年04月24日

事務事業名	環境保全センター管理事業				担当	産業環境部 環境課 環境保全センター	
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり				電話番号 0285-83-3353	
施策名	3	廃棄物の抑制と適切な処理				<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業	
関連個別計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 21 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	
法令根拠	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 真岡市環境保全センター設置条例						
予算科目	1.一般会計	4.衛生費	2.清掃費	2.塵芥処理費			
事業概要	<p>昭和47年に真岡市と二宮町で組織する、一部事務組合(真岡・二宮地区清掃事業組合)を設立し、両市町のごみ処理を実施していたが、最終処分場がないため、焼却灰は県外持出し処理をしていました。平成4年4月に当組合で最終処分場を建設(竣工)し、焼却灰及び不燃残渣等の埋立を開始しました。</p> <p>平成21年3月23日に真岡市と二宮町が合併し、真岡市となったため、当組合は、合併の前日に解散し、真岡市で管理運営をしている。</p> <p>また、当時の埋立年数は、10年で完了予定であったが、ごみの資源化が進み焼却灰が減少したため、平成13年に地元との協議により、埋立期間を10年から20年に延長し、さらに平成23年度に、地域との話し合いにより、平成9年度まで5年間の埋立延長しました。</p> <p>平成25年10月に地元3区、中部環境、芳賀広域、真岡市の6者協議を行い、芳賀地区エコステーションから排出される焼却灰及び不燃物等の残渣の受け入れについて、平成26年から2年間の協定を締結し、その後芳賀広域の最終処分場建設に伴い受け入れ期間を平成28年度末まで延長し終了した。</p>						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・焼却灰等の最終処分は、「廃棄物の抑制と適正な処理」に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? ・税金を投入して達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・一般廃棄物の最終処分は、市町村の事務事業である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか? ・意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある ・真岡市の焼却灰及び協定を結んだ芳賀地区エコステーションからの焼却灰、不燃物等の残渣の埋立を実施しているため適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある ・適切な管理運営を実施しているため、向上の余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない ・芳賀広域の最終処分場(芳賀地区エコフォレスト)の稼動に伴い、廃止に向けて進めている。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか?	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか?	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・必要最小限の経費で、効率的な維持管理に努めている。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・必要最小限の人数で管理運営を実施している。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? ・受益者負担が公正・公平になっているか?	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・真岡市民及び市内事業所が、排出したごみの焼却灰等を、全量埋立てているので、公平である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画)

廃止 見直し (:目的妥当性 :有効性 :効率性 :公平性) 統合 繼続
廃止に向けて、埋立終了に伴う最終覆土工事と3年間の水処理が必要となる。

(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か?それをどう克服していくか?

(3) 改革・改善による期待成果

	コスト		
	削減	維持	増加
成果	向上		
	維持		
	低下		

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述説明不足(説明責任不充分) 評価内容が客観性を欠く 評価内容は客観的と言える

(2) 2次評価者としての評価結果

①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり

(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性

廃止 休止 目的絞込み 目的拡充
 事業統廃合 事業のやり方改善
 予算削減 予算増大
 現状維持(從来通りで特に改革改善をしない)

(4) その他2次評議会議で指摘された事項

(5) 改革・改善による期待成果

	コスト		
	削減	維持	増加
成果	向上		
	維持		
	低下		